

## 夏油高原スキー場：ゲレンデ練習・ツリーラン報告

【山城】焼石連峰・夏油高原スキー場

【日程】2020年1月11日(土)～12日(日)

【メンバー】CL 菊池・SL 会員外 (SA)・瀧瀬・会員外 (IG)

【行程】

11日：千葉—宇都宮—夏油高原駐車場—スキー場ゲレンデ滑走・ツリーラン—スキー場直営スキーヤーズベッド泊

12日：宿—ゲレンデ滑走・ツリーラン—駐車場—帰葉



- ・1/11～1/13の3連休、例年この時期、ツアーエリアはそろそろツアー適期を迎えているはずであったが、今期はやはり暖冬で満足に山スキーツアーを楽しむことはできていない。そこでチームちば山の会は若手の立案で比較的積雪が多い岩手県の夏油高原スキー場で1泊2日の合宿を行った。我が家を2:45出発、幕張で2名をPU、そして宇都宮で1名をPUし、552km走行し9:15頃にはスキー場の駐車場に到着した。積雪は200cm、例年に比べ1m位は少ないようである。全長1740mの第一ゴンドラに乗ってトップへ、早速展望台に上がり記念撮影となった。スキー場のトップ山頂展望台は標高1077mとそれほ

ど高くないが、雪質の良い豊富な積雪量と、ツリーランコースでパウダーランが楽しめ、全てのゲレンデコースがセンターハウスに集中するという、効率的で魅力的な人気のスキー場である。



ボトムまで軽快なクルージングを楽しんだ後、早速ツリーランルートに入ってみました。積雪不足のため一部(サミットとラビット)が解放されているのみであった。サミットエリアは既に、トラックがかなりあるが、少ないノートララインを物色しながらの藪を避けながらの滑走であるがパウダーが温存されており、それなりに楽しめた。サミットでのツリーランを3本楽しんだ後は、ゲレンデでの弱点矯正練習の繰り返しです。TSさんもなかなかの安定したフォームになってきています。



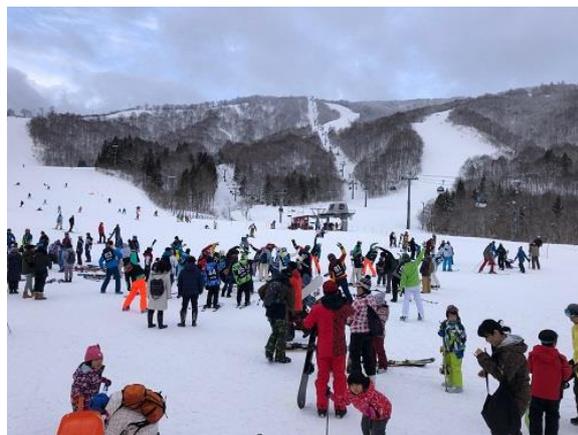
SA君とTAさんのコラボ滑走写真です。最大斜度33度の非圧雪のB2ではやや苦勞しながら頑張って滑走した。疲れた小生とTSさんは午後3時半頃チェックイン、最年少で

元気な立案者 SA 君はナイター照明の時間まで気合の練習に勤しんだ。もともと上手い SA 君は、弱点矯正の効果抜群で、力強さの中にエレガンスさも加わり、安定した滑りが際立ってきた。

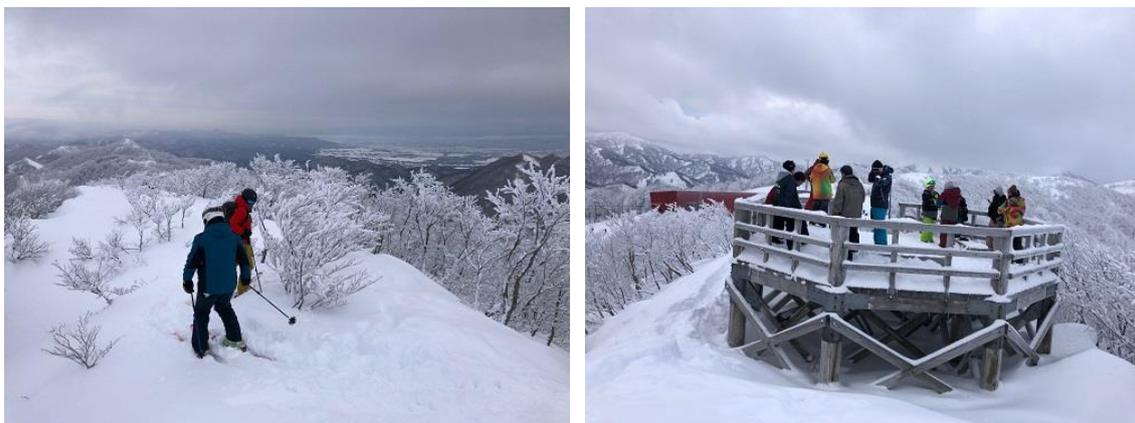


宿泊はセンターハウス直結のスキーヤーズベッド、温泉良し、食事は美味しいバイキング。小生は風呂上りのいつもの金麦と氷結とさらに生ビール、持参のワインなど、山スキー談義を楽しみながらの夕食宴会。小生は早くも眠くなり一足早く「お休み」、あとの3名はしばらく宴会談議が続いたようです。

- 2日目(12日)は前日夕方からの降雪量は山頂部で5~10cm、期待したほどは降らなかった。ゴンドラ運転開始前にA2.A1を4本滑走、整備されたピステン斜面の上に薄っすらパウダーが覆っており素晴らしい滑走感が味わえた。こんなゲレンデスキーもよいなあと、今後のスキー余生はまだまだ楽しめるであろうと実感した。そして再びサミットのツリーラン2本、新雪が少なくても前日より良い感じでした。SA君のツリーランパフォーマンスが決まっています。10時のボトムは激混みです。連休2日目で人混みはピークでしょう。



2本目のサミットは展望台から続く稜線を少し進んでエントリーです。振り返ると展望台はこんな感じです。



稜線直下のツリーランです。満足のパウダーツリーランで記念撮影しました。



午後 2:35 滑走終了、センターハウスの中は活気があります。カフェでクレープとコーヒータイム、温泉(チェックアウト後は 400 円)に入り帰路につきました。

